

交通百葉箱：人間は、けっこう損をすることもやっている，JAF Mate 6月号，p. 45, 2002.

どちらかのクルマが道を譲らないとすれ違うことができない道路区間で調査．道を譲ったクルマに，譲られた車が挨拶をしたか否かを観測．

挨拶をした車 30 台

挨拶をしなかった車 25 台

「感情はすべて勘定説」って知ってますか？ 感情を含めた人間の行為はすべて損得の勘定で説明できる、という社会科学上の一説です。つまり、人助けするのも善い人だって皆に思われたいからだし、子供をかわいがるのも将来面倒を見てほしいから、っていうわけです。世知辛いけど、けっこう説得力ある説だと思いませんか？

今回の調査では、55%ものドライバーが挨拶（お礼）をしています。実はこれ、感情はすべて勘定説をあからさまに否定するデータなんです。よく考えてください。見ず知らずのドライバーに「お礼をする」ことで得することなんて一つもないのです。多少の気恥ずかしさは伴うし、手をあげたり・お礼のクラクションを鳴らす時に余分な注意を割かなくちゃいけない、だいたい対向車の人とは二度と会わない、にも関わらず、55%もの人がお礼をしたんです。

感情はすべて勘定説の信奉者は「挨拶したら気持ちいいからだ」とか言うんですけど、だったら、なぜ、人間は挨拶したら気持ちよくなるの？って聞けば、もう答えられないんです。つまり、私たちの生活には、「損得度外視・感情説」の方が、ぴったりくるんです。

で、今回のデータは、「私たちには損得勘定だけじゃない、損得を度外視した感情が、おおまかに言って半分以上（55%）はあるんだ」ということを意味しているんですね。

さて、我々は、どうやって「損得度外視」になったのか？

それは、「ダーウィンの進化論」の立場から言えば、そうした方がみんな仲良くなれて暮らしやすいから、で、逆に勘定だけの動物は生き残れなかったから、なんですよ。だから、ちょっとした挨拶のある社会が暮らしやすいってことは、

「進化論で証明済み！」って言えなくもないんですね。